

児童文化研究会

(通称：じゃりけん)

【人形劇公演】

開催場所

社会福祉法人多摩養育園
光明第八保育園
～南大沢地域の保育園～

日時

2022年8月27日(土)

報告

■ 人形劇が南大沢の保育園にやってきた

8月27日(土)、本学ボランティアセンターに登録する「児童文化研究会(通称：じゃりけん)」が人形劇公演を地元南大沢地域の光明第八保育園ホールにて2回開催しました。当日、初回(11:30～)は子供達8名と保護者の方々を中心に観劇いただきました。

当日登園していた園児に加えて、休日で訪れた子供たちが保護者と一緒にホールに来場しました。全員が舞台前のシートを敷いた床に体育館座りすると、大勢の大きな体格の本学のお兄さんお姉さんに囲まれて緊張したのか、周りをきょろきょろしながらお行儀よく座っていました。

人形劇が始まる前に、『じゃりけん』のお姉さん2人が、野菜当てゲームを始め、子供たちの緊張感をほぐし、アイスブレイクしました。子供たちも座りながら身体を動かし、声を出して活気付きました。



■ 人形劇「ギャオスターの夢」の始まり、始まり

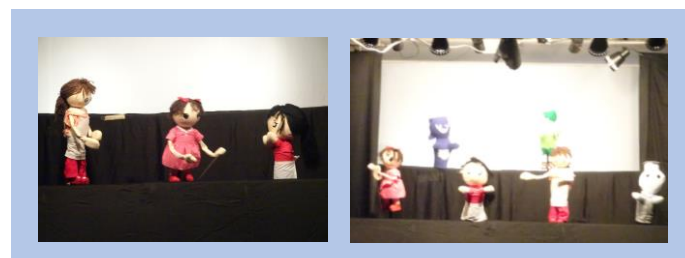
子供たちが、「もういいかい?」と舞台に向かって声を掛けると、「もういいよー」の声が返ってきました。そして、人形劇が始まりました。

最初の「ギャオスターの夢」は、モンスターの「ギャオスター」がアイドルになる夢に目覚める物語でした。『個性を尊重した、主人公とモンスターのバディもの』で、色彩豊かな、かわいい、特徴ある人形達が生き生きと舞台上を動き回り、個性ある声の人形ごとに発せられました。テレビ画面の中のキャラクターと違って、生の人形劇公演に触れる喜びは格別だったのではないのでしょうか。ギャオスターでもアイドルになれるんだという夢もありました。



■ 続いて「野菜ぎらいのあやちゃん」だよ

次の「野菜ぎらいのあやちゃん」は、野菜ぎらいの子が、無理せず野菜を食べる気になってくれるようなストーリーでした。『野菜ぎらいはダメ』とか『野菜ぎらいは間違っている』といった発想からスタートするのではなく、「野菜ぎらいの子は普通なんだよ、だけれども『野菜を食べない』と白血球がバイ菌に負けてしまうんだよ」という話で、「だから、野菜を食べ『白血球がバイ菌を退治できるように』なろうね」というストーリーが、ずっと観客の心に入ってくるような人形劇でした。両劇において、人形の声、人形の動きが観客の心を揺らす感動がありました。『アイデアから色々想像をふくらませ、教訓的メッセージも込めて、小さい子でもわかりやすいようにと練りに練って脚本は出来ました。』



■ じゃりけん出演者の声

出演した学生の一人に聞いたところでは、子供の頃、生の人形劇を直接見て感動したので、自分でも人形劇を演じて子供たちに感動を伝えたかったという話がありました。子供たちも、コロナ禍でなかなか見れなかった生の人形劇公演を直に観れて、心を弾ませたのではないのでしょうか。彼らが大人になったら、また子供たちに自分たちの人形劇を演じて見せて、この感動を次世代に伝えたいと思うのではないかと感じました。

■ じゃりけんメンバーのコメント(抜粋)

- ・コロナの影響で集客が不安でしたが、保育園のご協力もあり、たくさんの子供たちに見に来ていただけたので嬉しかったです。
- ・子供たちは劇中の台詞に返事をしてくれたり、休憩時間のゲームにも笑顔で参加してくれました。自分の目で実際に子供たちの反応をみることで、次は今回よりも楽しんでもらえるような劇を作ろうと、モチベーションがより一層上がりました。
- ・ボランティアをすることで地域の方と繋がり、普段の生活では得られない学びもあるので、これからも人形劇や子供に向けたボランティア活動を行っていきたいです。
- ・公演予定：11月大学祭(南大沢)、春公演(同地域)